

令和5年度 施政方針

2月13日、宝塚市議会でも山崎市長が新年度の市政運営に向けた基本的な考え方と主な施策を示す施政方針を表明しました。その概要をお伝えします。



宝塚市長

山崎 晴恵

新型コロナウイルス感染症の影響により新たな生活様式が取り入れられ、テレワークをはじめとした新しい働き方やオンライン手続きの普及など、新たなコミュニケーションの取り方が社会に浸透し、人と人とのつながりは新たな形を見せ始めています。こうした社会の変化を好機とし、持続可能なまちづくりを進め、

将来へつなぐことが市長としての使命であると強く感じています。

新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、物価高騰に影響を受けた市民や事業者への支援、新ごみ処理施設や市立病院の今後のあり方などの重要課題への対応に引き続き職員一丸となってまい進していきます。

本年は市長の任期中間の年です。これまでの取り組みで生まれた「つながり」や「変革の芽」を、「市民の幸せ」という形にしていかなければなりません。未来を担う子どもたちをはじめ、市民の皆さんの安全で豊かな暮らしを守りながら、魅力ある宝塚を築き上げていきます。

令和5（2023）年度は、令和3（2021）年度にスタートした第6次宝塚市総合計画に基づき、協働・共創による持続可能なまちづくりを推進していくために、下記の3つを柱に取り組んでいきます。



令和5年度 施政方針の全文はこちら

令和5年度予算案 予算総額 1725.8億円(前年度比+40.9億円)

一般会計 884億円 (+49.6億円)

福祉や医療、子育て、教育、道路整備などの行政サービスを行う予算。市税や地方交付税などによって賄われます。

特別会計 515.5億円 (+7.2億円)

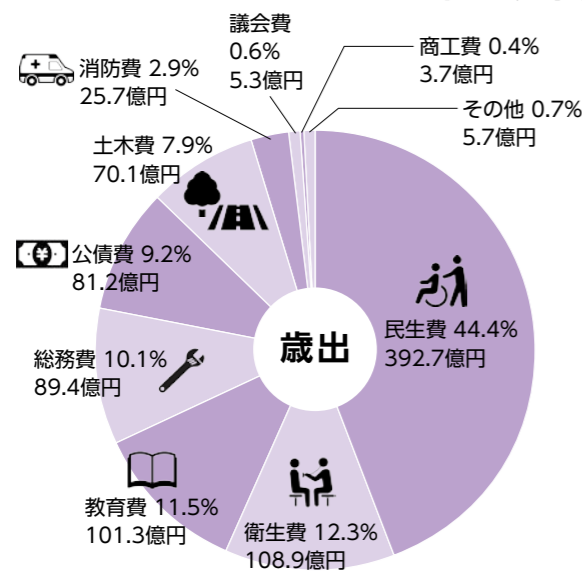
特定の支出を一般会計と切り離して経理する予算。国民健康保険など特定の収入で賄われ、宝塚市には14会計あります。

企業会計 326.3億円 (-15.9億円)

上下水道や病院など、民間企業のように、事業の収益で賄う会計。

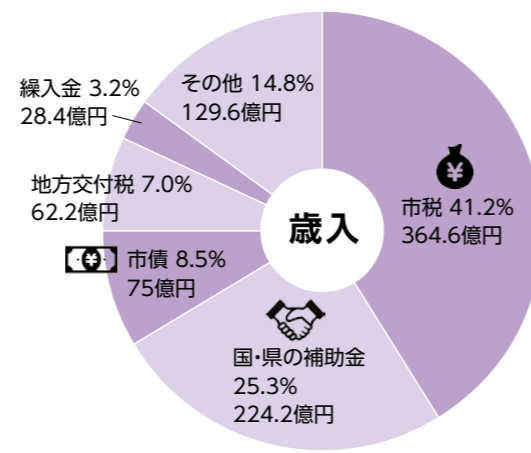
令和5年度の一般会計予算の規模は884億円で過去最大となりました。内訳は下記のとおりで、主な事業は本誌4～5面に掲載しています。

一般会計予算の内訳



前年度比

- 新ごみ処理施設整備事業の増加などにより、衛生費は34.3%増
- 都市計画道路の整備事業費の増加などにより、土木費は9.0%増
- 学校施設の老朽更新や光熱水費の増加などにより、教育費は4.8%増
- 新庁舎・ひろば整備事業の減少などにより、総務費は6.3%減



前年度比

- 市税は2.0%増
- 新ごみ処理施設整備事業への国補助金の増加などにより、国・県の補助金は8.4%増
- 新ごみ処理施設整備事業の増加などにより、市債は12.5%増

令和5年度予算案を踏まえた今後の財政見通しは、本誌5月号でお知らせします。

3つの柱

子どもたちが安心して健やかに育つまちを「つくる」

子どもの健やかな成長のためには、切れ目のない支援が不可欠です。2月に、たからっ子総合相談センター「あのね」を開設しました。今後は、どこに相談していいかわからないような、子どもや家庭に関するさまざまな相談を受け、年齢や分野ごとの切れ目のない支援につなげます。保健、福祉、教育の分野から多面的に課題の分析を行い、関係機関が連携して相談者に寄り添った支援が行き届くよう相談体制を強化します。

学校教育におけるさまざまな事案には、弁護士などの専門的な知見を取り入れ、子どもたちに寄り添いながら解決に取り組みます。子どもの自己肯定感や表現力を育み、教育のICT化を推進するなど、全ての子どもが社会で活躍できるよう、さらなる教育環境の整備を進めます。

人権、いのちと暮らしを未来に「つなぐ」

ロシアによるウクライナ侵攻に強い憤りを感じ、市長として全ての人の権利、いのち、暮らしを守ることが改めて心に誓いました。

南海トラフ地震などの災害に備えるため、災害発生時に迅速かつ的確に対応できるよう第二庁舎に新たな防災拠点を立ち上げ、行政を核とした体制の構築と、地域とともに命を守る取り組みを推進します。また、市立病院の経営改革を市の重要課題の一つとし、経営強化プランの策定や建設地に関する調査を進めています。皆さんが安心して医療を受けられる環境を整えます。

人生100年時代を迎えた今、高齢者がいきいきと活動し、つながりを感じながら暮らせる社会にするために、健康づくりや活動の場づくり、そして地域で支え見守る環境づくりを進めていきます。

協働と共創で魅力のあるまちを「きずく」

本市は現在、阪急阪神ホールディングスを始め、さまざまな企業や大学との包括連携協定を締結しています。多様な主体が持つノウハウや知見を生かし、時代に合った市民サービスの実現に向けて前進しています。対話を重ね、認め合い、それぞれの魅力を引き出すことがまちの活性化には欠かせません。さまざまな企業や本市で活躍する人とつながり、手を取り合うことで、それぞれの力を最大限に発揮できるまちづくりを推進していきます。

宝塚市が目指す 6つのまちの姿

第6次総合計画における6つの目指すまちの姿に向けて令和5年度は、3つの基本方針「つくる」「つなぐ」「きずく」のもと施策を推進します。

福祉が充実し安心して暮らせるまち

新規 産婦への支援 870万円

産婦の経済的な負担軽減のため、産婦健康診査費用や低所得者を対象とした新生児聴覚検査費などを助成します。

新規 市立病院経営強化プラン等策定業務委託 939万円

市立病院の経営強化プランの策定と新病院の建設地に関する調査を実施します。

新規 計画相談支援推進事業補助金 600万円

障害福祉サービス利用計画の作成を行う相談支援事業所の相談員不足の解消のため、相談員などの雇用に対し補助を行います。



宝塚らしいにぎわいと文化芸術があふれる創造性豊かなまち

新規 文化施設管理運営 680万円

ベガ・ホールの出演者や利用団体の利便性向上のため、エレベーターの設置に向けた設計に着手します。

観光振興・宣伝事業 978万円

兵庫デスティネーションキャンペーンの開催に合わせた観光需要の喚起と地域経済の活性化を図ります。また、宝塚歌劇の市民貸切公演を再開します。

宝塚フェスタ事業 340万円

3年間休止していた宝塚サマーフェスタの開催に係る補助金を交付します。

豊かで美しい環境を育むまち

新規 宝塚すみれ墓苑管理事業 4113万円

市営霊園の新たな魅力創出のため、樹木葬式墓所の供用を開始します。

新ごみ処理施設整備事業 25億6670万円

既存の収集車の車庫棟や駐車場などを利用して、仮設リサイクル施設の建設などを実施します（令和14年9月完成予定）。



子どもの生きる力が育つまち

新規 医療的ケア児の受入体制整備 1916万円

保育所や幼稚園における医療的ケア児の受入体制の整備を行います。

拡充 放課後児童クラブ 4059万円

入所希望が増加している小学校区に、民間の放課後児童クラブを新設します。

拡充 子ども総合相談事業 793万円

第二庁舎に新設した、たからっ子総合相談センター「あのね」で、さまざまな困難を抱える子どもや家庭からの相談を受け、関係機関と連携しながら切れ目のない支援を行います。

拡充 部活動推進事業 116万円

実技指導者配置の実証事業や、部活動の地域への移行を休日から段階的に進めます。



共に創り、未来につなぐまち

新規 市公式LINEの機能拡充 259万円

セグメント配信により、必要な情報を選択して受信できるようにします。

拡充 窓口支援システム 5921万円

タブレットなどを活用し、「書かない窓口」を推進し、申請書作成の負担を軽減、来庁者の待ち時間を短縮します。



住み続けたい安全・快適な暮らしがあるまち

新庁舎・ひろばの整備 30億3711万円

同事業の最終年度として、第二庁舎外構工事、中庭ひろばの整備を実施します。

都市計画道路の整備 16億9174万円

安全安心の市街地形成を図るため、都市計画道路の整備を進めます。

競馬場高丸線 10億3989万円

荒地西山線 4億5650万円

山手幹線 1億9535万円

